

第14回柳瀬川・空堀川流域連絡会(第7期)(ワンドの現場調査・作業)

日 時 平成26年10月8日(水)10時00分～12時00分

場 所 東村山市恩多町 空堀川 御成橋上流左岸

出席者 都民委員 3名  
団体委員 2名  
行政委員 4名  
事務局等 3名

配布資料 ① ワンドの現地調査・作業スケジュール(案)  
② 第7期(第14回)柳瀬川・空堀川流域連絡会(現場調査)現場野帳  
③ 空堀川「御成橋ワンド(池と水路)」維持管理ルール

スケジュール 10:00 ①現地集合  
10:10 ②調査  
進め方の確認  
挨拶  
形状・寸法の測定  
生物等の確認調査  
破損・修理必要箇所の確認  
11:00 ③検討・打ち合わせ(休憩を含む)  
本日行う作業  
今後の維持管理について  
11:20 ④手直し作業  
11:45 ⑤片付・挨拶  
12:00 ⑥現地解散

● 調査・作業状況写真

【調査】

調査・作業実施前のワンドおよび周辺状況。



現地集合、河道内に移動後、事務局より本日の作業内容および手順案について説明。



形状・寸法の計測、破損・修理箇所の確認、生物等の調査。

湧水吐出し部



水路（湧水吐出し部～池）

- ・粘土張りの残存が確認された。



池



水路（池～川）



### 水路（川との接続部）

- ・どじょうが確認された。



### その他（池上流の湿地）

- ・池の上流側から水がこぼれ、湿地のような区域が生じている。
- ・こぼれる水量が多い時には、本川側に水路として水が流れている模様。



### 【検討・打ち合わせ】

測定、調査結果を元に補修方法、作業内容を参加者全員で確認した。  
あわせて、維持管理に関する意見交換を行った。



【手直し作業】

湧水吐出し部（下）は土のうの積み直しの必要なし。

水溜り内の止水用毛布の敷き直しを行った。

池周辺はゴミ拾い、清掃を行った。

池上流側の湿地帯は、生物の生息環境など、今後の様子を見ながら検討していくこととし、そのままとした。



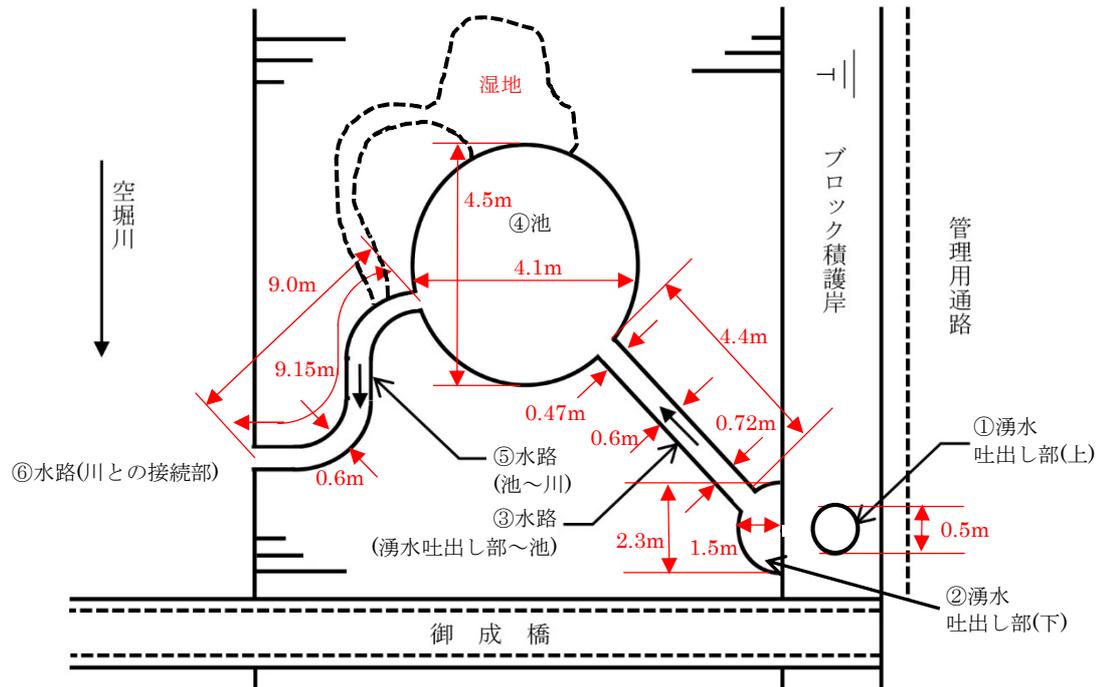
池の周りの転落防止用ロープを張り直した。



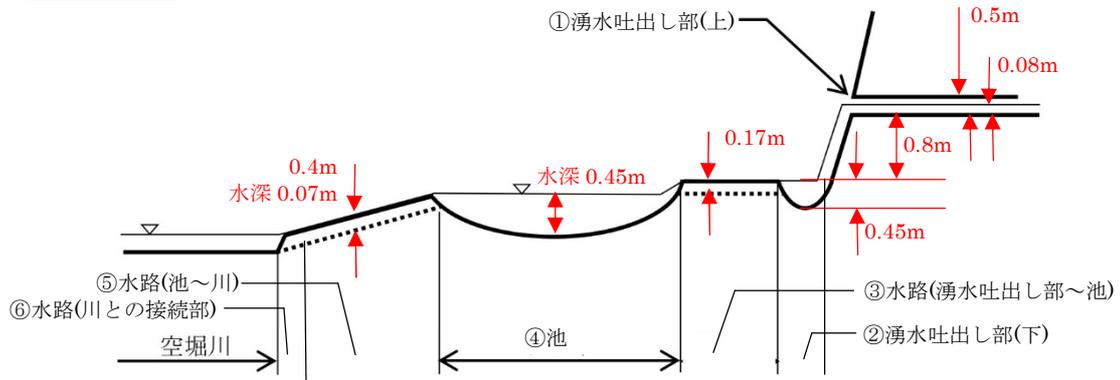
● 計測・調査結果

【形状・寸法の測定結果】

平面図



断面図



- ①湧水吐出し部 (上) 管径：0.5m、水深：0.08m。
- ②湧水吐出し部 (下) 管底から水面までの高さ：0.8m、水深：0.45m、  
水溜り大きさ：2.3m (上下流方向) × 1.5m (横断方向)。
- ③水路 (湧水吐出し部～池) 水路長：4.4m、水路高：0.17m、  
水路幅：0.72m (湧水吐出し部側)、0.6m (中央)、0.47m (池側)。
- ④池 池大きさ：4.5m (上下流方向) × 4.1m (横断方向)、  
水深：0.45m (流入無し)、0.52m (湧水流入時)。
- ⑤水路 (池～川) 水路延長：9.15m、直線距離：9.0m、水路幅0.6m、  
水路高：0.4m、水深：0.07m。
- ⑥水路 (川との接続部) 形状の記録なし

※湿地の形状の記録なし

### 【生物等の確認調査結果】

以下の生物が確認された。なお、魚影は見られなかった。

- 池 (④) : アメンボ  
水路 (川との接続部) (⑥) : ドジョウ、ヨコエビ  
その他 (池周辺、湿地) : ウシガエル、チョウチョ、赤トンボ、ショウリョウバッタ、モグラ

植物は池周辺にショウブ、オギ、クレソンが見られた。

### 【現状・補修が必要な箇所の確認】

- 湧水吐出し部 (下) (②) 現状：池外側に2箇所の洗掘が見られ、漏水が認められた。  
補修：土のう積み直しの必要なし。  
水溜り内の止水用毛布の敷き直しを行う。
- 水路 (湧水吐出し部～池) (③) 現状：草等がたまり、水路の両脇0.3m程度に水が被っていた。  
補修：水路内の草等の除去を行う。
- 水路 (川との接続部) (⑥) 現状：水路出口がワンド状になっている。  
元は広がったが、土砂堆積により狭くなっている。

## ● 検討・打合せ内容

### 【本で行う作業内容】

- 湧水吐出し部 (下) (②) : 水溜り内の止水用毛布の敷き直しを行う。  
漏水は小規模なので周囲の土のうの積み直しの必要はない。
- 水路 (湧水吐出し部～池) (③) : 水が流れるよう掃除する。
- 池 (④) : 周辺のゴミ拾いと清掃を行う。  
池周囲の杭を立て直し、転落防止用のロープを張る。
- ワンド (池) : 流出口の土のうは現状のまま様子を見る。
- 〈参考〉池上流の湿地は手をつけずに現状のままとし、様子を見る。

## 【今後の維持管理について】

### 湧水吐出し部（上）(①)

- ・湧水は地下水であるため、魚が住むには水温が低すぎるのではないかと。
- 水温の計測が必要。水路を長くして水を廻して池に入れるなどの工夫も考えられる。

### 湧水吐出し部（下）(②)

- ・湧水吐出し部下の池の、止水状況を改善する。
- ・湧水吐出し部下の池はブロック積みあるいは天然岩としたい。
- ・土のう下流側50cmの高低差対応として土のうを1:2の勾配で積むとよいのではないかと。
- ・布団籠を設置し、土のうの押さえとするのはどうか。
- ・周りは擬石かコンクリートでやり替えた方がよいのではないかと（今のままでは台風等の大雨の時に流される）。

### 池(④)

- ・池出口の土のうおよび土のう上に堆積した草を除去すると水路（池～川）の流れが復活するが、現状の細流とどちらがよいのか検討する必要がある。
- 池出口の土のうを撤去すると池の水位が下がり、湿地部に水が行かなくなる。土のうの高さで池の水位や湿地部の範囲をコントロールできる。

### 水路（川との接続部）(⑥)

- ・水路と川の合流部を魚が休めるように拡幅してはどうか。
- 川の流速が大きいため、法部、合流部の洗掘対策が必要。

### その他

- ・全体的に水際の植生を保全する。
  - 植生の残し方、草刈りの方法について議論が必要。
- ・池上流側の湿地はトンボの営巣地になりそうなので、保存を希望する。
  - 湿地の扱いについて議論が必要である。
- ・天然岩を入れるなど、近隣住民が利用する通路からの見栄えをよくしたい。
- ・ワンド周辺を囲うロープの範囲を広くすればどうか（現在、転落防止用として池の周りをロープで囲っている）。
  - 現状の鉄杭（転落防止用ロープの柱）は見苦しいため、別のものを検討してはどうか。
- ・流連の活動をPRする看板は必要である。
- ・川への降り口の改善が必要ではないかと。

## ● 手直し作業

前頁「本日行う作業内容」により、作業を行った。